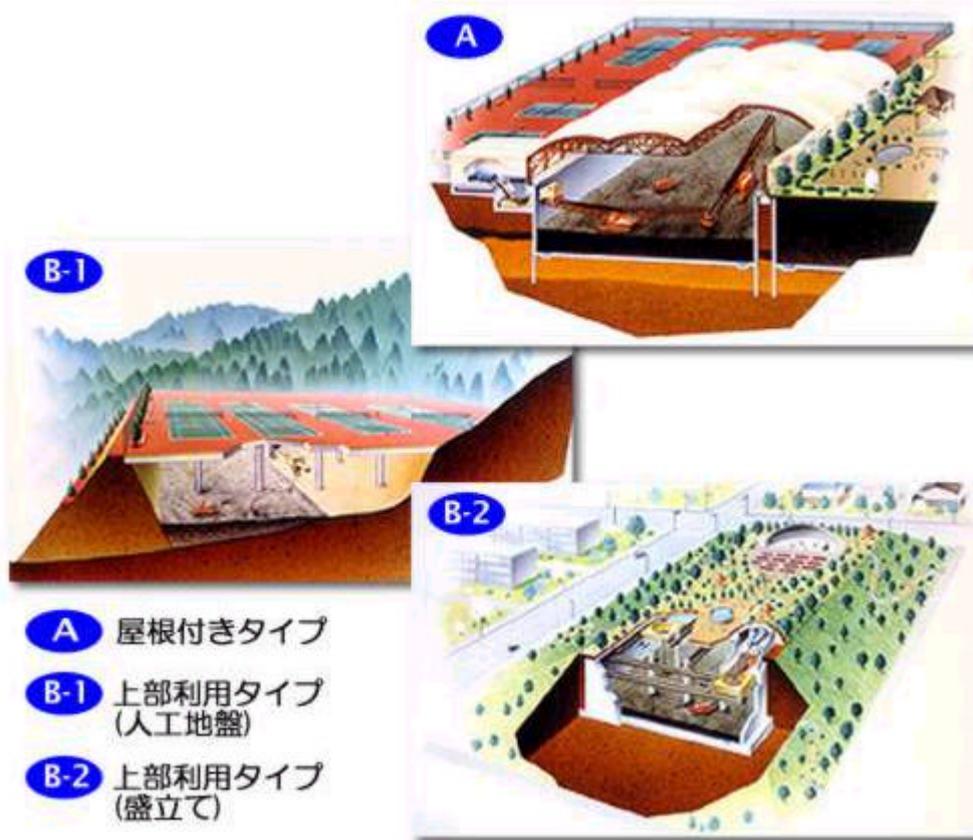


クローズド処分場

技術概要

埋立地区（埋立廃棄物層）が、覆蓋によって外界と区分されている最終処分場。



出典：クローズドシステム処分場開発研究会  
(代表幹事 花嶋正孝 (財)福岡県リサイクル総合研究センター長)  
HP <http://www.cs-ken.net/sample2.html>

図．クローズド処分場イメージ

新都市での導入効果について

従来のオープン型最終処分場との比較を下表に示す。

表 クローズドシステム型とオープン型の比較

項目	処分場のタイプ	
	オープン型	クローズドシステム型
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観への影響が大きい</li> <li>・ 環境管理（浸出水、ガス、臭気、飛散）が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観への影響が少ない。</li> <li>・ 環境管理（浸出水、ガス、臭気、飛散）が容易である。</li> </ul>
構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しゃ水に対する影響が大きい</li> <li>・ モニタリングに最新の注意がいる。</li> <li>・ 浸出水集水処理システムを考える必要がある。</li> <li>・ 覆土が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境管理技術が生かされる。</li> <li>・ 雨水による浸出水の発生がない。</li> <li>・ 覆土がいらないと考えられる。</li> <li>・ 埋立作業の自動化がしやすい。</li> <li>・ 覆蓋構造により上部利用ができる。</li> </ul>
跡地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閉鎖の技術基準が不明確である。</li> <li>・ 安定期間がどれ位必要か不明である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 覆蓋構造タイプにより跡地利用を先取りできる。</li> </ul>
立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口の少ない、林間及び山間に多い</li> <li>・ 遠隔地に多い</li> <li>・ 運搬距離が長い場合が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部の立地も考えられ、発生者自身の処理の原則を守れる。</li> <li>・ 利用可能用地が増大する。</li> <li>・ 土地の有効利用が可能である。</li> <li>・ 運搬距離の短縮が可能がある。</li> </ul>
住民対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 'ゴミ捨て場' の悪いイメージが強い</li> <li>・ 住民同意が得にくいことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クリーンなイメージが得られる。</li> <li>・ 住民の同意が得やすい。</li> </ul>
埋立作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天候に左右される。</li> <li>・ 埋立作業が容易である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天候に左右されない。</li> <li>・ 無人化・自動化の技術が必要なこともある。</li> </ul>
維持管理	沈下、浸出水の発生などに対する管理が必要である。	・ 管理がしやすい。
資源	・ 資源化しにくい	・ 資源として使いやすい
建設費用	-	・ オープン型より割高となる。

出典：クローズドシステム最終処分場の提案（花嶋正孝） 廃棄物学会誌、vol.1,NO.1

導入における課題（ 対応策）

技術的に未成熟な部分がある。

他の処分システム等との比較考慮のうえ、モデル的導入に適しているかどうかを判断。

その他（導入状況・技術開発等動向・将来見込み等）

クローズドシステム型最終処分場は建設費用が高めであるが、住民同意が得られやすい等の利点もあり、大都市圏等の最終処分場に困窮している地区では導入の可能性があるとされている。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成